

“KANAGAWA” 福祉タイムズ

2003 1 No.614

発行日 2003年（平成15年）1月15日
毎月1回15日発行
発行所 〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4-2
社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会
TEL045-311-1423 FAX045-312-6302
<http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyo/>
編集発行人 清水勝夫
定価 80円（郵送料込）
印刷所 株式会社 神奈川機関紙印刷所
昭和27年1月30日 第三種郵便物認可



「思いやりを大切にしたい」ポスター部門で「ともしび大賞」（3面参照）を受賞した小田原市立城山中学2年の鈴木恵美里さんは、中1の時総合学習で福祉を選択した。祖母の車椅子を学校に持ち込み体験することから始めてみると、意外に苦労が多いことに気付かされる。祖母と行くケアセンターでは障害を持つ方とも出会う。「描くだけでなく、実際にふれあいながら考えると学ぶ事も多いです。大賞を一番喜んでくれるのは、こんなきっかけをくれた祖母だと思います」と爽やかに話す。（写真・文 菊地信夫）

あんどる

ミスや間違いはつきもの。とはいえ信頼で成り立つ記事にそれは許されません。小紙でも「ミス撲滅」に心血を注いでいます。

パソコン主流の最近は変換ミスの恐れが付きます。これは笑えないし、とんでもない誤解を招きかねません。そこへいくと昔の手違いは、その内幕、内情がかいまうかがえ、情状酌量の余地もあったようです。

小紙でも伝説の域に達している「名作」が少なくありません。極めつけは火事の記事。「警察は、火元の湯沸かし器を呼んで事情を聞いています」とやってみようとしたのです。

まだ、文選といつて手作業で鉛活字を拾って記事を組んでいる時代のこと。時間に追われ、活字を抜き差しして記事の差し替えを行っているうちに、文章が混乱したのです。

このミスに対する読者の反応がまた泣かせるものでした。「これだから神奈川新聞はやめられない」「湯沸かし器は事情聴取に必要と答えたのか、続報を」。そんな手紙が相次ぎました。なんと温かい、諧謔の味……。古き良き時代を思わせるエピソードです。

殺伐とした現代。中には間違いがあつてくれればと思うニュースさえあります。今年は世相も穏やかであつてほしいものです。

神奈川新聞文化部長 福江裕幸

目次

CONTENTS

- 14年社会福祉関係叙勲・褒章等受賞者……………2・3
- ともしびポスター・絵本コンテスト入賞作品決定……………3
- 2002年福祉の動き……………4・5
- ペンライトの光とホカロンの温もりの中で……………6
- 本年度ケアマネ試験結果のお知らせ……………6
- 連載・企業の姿勢から学ぶもの(10)……………8・9